

2014年5月23日

一般社団法人 J B I A 社員殿

定時社員総会開催通知

日頃から、一般社団法人 J B I A 運営に関し多大なるご理解とご協力を賜り有難うございます。さて、定款の定めにより下記要領にて定時社員総会を実施しますのでご案内申し上げます。

一般社団法人 J B I A
代表理事 星野 敏

1. 日時：2014年5月30日（金）午前10時30分
2. 場所：一般社団法人 J B I A 主たる事務所
（東京都港区芝公園3-5-8 機会振興会館 T-B I S C 内）
3. 議事内容：定時社員総会議案（次頁以降）による
4. 議事要領：法第38条「決議においては書面にて行使することができる」併用。
（例年と同様、全国に社員が存在する J B I A 総会の実施は、経済面で合理的な運用をしたいと思っておりますので、委任または書面（電磁可）決議をご活用下さい。）

書面審議の議決書又は委任状は2014年5月30日12時までに事務局(soukai@jbia.jp)に必着するようご送付下さい。

定時社員総会議案

議事内容

- I 2013 年度事業報告
- II 第 1 号議案 2013 年度決算承認の件
- III 第 2 号議案 2014 年度予算承認の件

2014 年 5 月 30 日

一般社団法人 J B I A

I 2013 年度事業報告

1. はじめに

2013 年度は、本部を神奈川県川崎市高津区坂戸 3-2-1 のかながわサイエンスパーク運営中核的主体である株式会社ケイエスピー内から、東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 T-BISC 内に、事務局を株式会社ケイエスピー内から本部と分離して福島県会津若松市栄町 2-4 NTT 別棟 NAXIA 内にそれぞれ移転しました。

これに伴う引っ越し作業、法的な移転続きと業務引継ぎに多大な労力を要しましたが、徐々に整備が整い年度末には協会としての定常業務が実施可能な状態になり、新体制に移行した年となりました。

一方、経済環境が激変するわが国において、外面は景気回復が喧伝されていますが、その陰には人口が益々減少する地域等様々な生活困窮が報じられており、成熟国家ならではの課題が山積して BI/IM の在り方も一通りでは済まされず、多様化対応、選択と集中が迫られた年でもありました。

2. 2013 年度の活動内容

今年度の事業計画に沿って以下の事業を実施しました。

1) 定款記載の事業

(1) 人材育成事業協力

一般財団法人日本立地センター主催 IM 養成研修及び BI 研修
特定非営利活動法人 教育・雇用研究機構（会津若松）主催 IM 養成研修
特定非営利活動法人福島県ベンチャー・SOHO テレワーカー協働機構主催
IM 養成研修

公益財団法人三重県産業支援センター主催 IM 養成研修
沖縄ビジネス・インキュベーションプラザ主催 OGS-IM 養成研修

(2) 認定事業（IM 認定、BI 認定の実施）

2013 年度内に東京、福島、会津若松、三重、沖縄の IM 養成研修修了者 60 名、その他 5 名、失効回復 1 名の合計 66 名が認定 IM を取得した。又、既存の IM の中から 5 名がシニア IM を取得した。

BI 会員については 1 団体（テクノプラザ宮城）が入会した。

(3) シンポジウム（共催）（実施状況はウェブサイトで広報）

北海道地区 札幌市にて開催 9 月 19 日

- 東北地区 会津若松市にて開催、 6月27日
 中部地区 名古屋にて開催 7月 4日
 関西地区 大阪市にて開催 2月 7日
- (4) 地域ブロックIMネットワーク活動共催又は参加情報提供（ウェブサイトで広報）
 東北IM連携協議会 横手市 10月31日
 中部IMネットワーク連携協議会&三重県BIサポート事例研究会合同連絡会
 名古屋市 1月24日
- (5) 地域活動協力（ウェブサイトで広報）
 NAXIAオープン記念事業参列 5月22日
 いわき市起業家サポートネットワーク講演会 10月9日
 釜石・大槌地域産業育成センター総会参加 5月17日
 「福島ベンチャーアワード2013」審査協力（副会長）於いわき産業創造館 LATOV
 11月29日
- (6) 女性IMネットワーク拡充協力
 31期IM研修受講者の女性IM6人によって自発的に形成されたネットワーク活動
 がさらに発展するよう、沖縄OGSを見学先に選びサミット開催に向けての準備活
 動を実施した。 3月16日
- (7) 情報・広報活動業務
 ①ウェブサイトによるJBIAの事業紹介
 ②ウェブサイトによる全国BI/IM活動の広報
 ③facebook「IMホットライン」（秘密設定グループ）による情報交換促進
 ④facebookページよる一般向けトピックスの広報
 ⑤ニュースレター（電子）発行3回
- (8) 海外交流活動
 ①AABI (Association of Asian Business Incubation)アワード審査参加
 アワードにはBI賞と起業家賞の2種類あり前者は11件、後者は10件の応募があ
 りました。これを西岡副会長と滋賀県産業支援プラザ所属の会員IMにより1日数
 時間、述べ約30日を要して評価作業を実施し、メンバーとしての分担を果たした。
 ②APJIE (Asia Pacific Journal of Innovation & Entrepreneurship)
 掲載論文査読
 機関誌には論文も掲載されるが、掲載に先立ち実施する査読委員を引受けている。
 査読は会員の専修大学鹿住教授で、今年度は4月と5月に各1件を査読した。所要
 時間は、1件1週間から10日間を要した。
- 2) 理事会開催状況
 (1) 電磁理事会
 4月16日 JBIA入会並びに認定IM承認の件

定時総会議案承認の件

5月29日 役員選任 会長(代表理事) 星野 敏
副会長 西岡 孝幸
監事 福田 稔

11月30日 J B I A入会並びに認定 I M承認の件
12月17日 J B I A入会並びに認定 I M承認の件
協会が同等と認める認定 I M承認の件
(米沢ビジネスネットワークオフィス横山氏)
3月24日 J B I A入会並びに認定 I M承認の件

(2) 理事会

2014年2月27日 於福島テルサ
新年度計画協議並びに総会日時等次第決定

3) 社員総会開催状況

日時：2013年5月25日(土) 午前10時30分
場所：一般社団法人 J B I A 主たる事務所
(東京都港区芝公園3-5-8 機会振興会館 T-B I S C 内)

議事内容：定時社員総会議案

- I 2012年度事業報告
- II 第1号議案 2012年度決算承認の件
- III 第2号議案 2013年度予算承認の件
- IV 第3号議案 第3期役員選任の件

社員総数13名、出席1名、書面審議者9名、欠席3名

出席率77% (総会成立)

出席社員議案賛成率100%

議案 全案承認

4) 日本ビジネス・インキュベーション協会会員状況（2014年3月末）

・個人	IM	286人
	Senior IM	47人
	認定なし	1人
・BI内個人	IM	31人
	Senior IM	12人
	認定なし	9人
・団体		31団体
・協賛個人		3人
・協賛団体		0団体

II 第1号議案 2013年度決算承認の件

一般社団法人JBIAは、2013年4月1日より事業計画に基づき、報告書記載の諸事業を実施し、公益活動の団体として決算期を終えた。

収入面は；

- ・複数のIM養成研修協力により多数の会員が増え増加がみられた。

支出面；

- ・毎年2月に実施していたJBIA主催のシンポジウムは、事務局移転作業のため今年度は延期し来年度中盤に行うこととしたため、支出が発生しなかった。また各地のIM活動と共催のシンポジウムも行政等の支援が得られたため支出が少なかった。
- ・地域開催のIM研修協力回数が増え、地域ブロックIM活動への参加が少なかったためこちらも旅費支出が計画より減少した。
- ・公益社団とならなかったことで会計会社への業務委託費増額が発生しなかった。

収入が伸びたことに反し支出が見込みよりかなり減少したため残金を蓄積することとなった。貸借対照表、正味財産増減計算書については添付決算資料を参照下さい。また監査報告書についても添付資料を参照下さい。

III 第2号議案 2014年度活動方針ならびに事業計画および予算承認の件

はじめに

日本経済はアベノミクス効果により、大手製造業を中心に業績は堅調に回復しています。GDP成長率や有効求人倍率の上昇（失業率の低下）、ベースアップに踏み切る企業も目立つなど、全体としては景気浮揚感が漂っている状況です。しかし、一方で、地方にはいまだに景況感を実感できない中小・小規模企業も多く存在しますし、福島県など東日本震災の

被災地の本格的な復興もこれからです。

そのような中、産業の新陳代謝の担い手である起業者の動向では「起業希望者は、この15年間で84万人と半減している」（2014年版中小企業白書）、としており、アベノミクス第3の矢「日本再興戦略」（産業競争力強化法）は、「起業・創業を促進することこそが我が国の産業競争力を強化する」と、今までにも増して創業・起業に関する国や地方自治体の関心も高まっています。

また、起業・創業においては若者や女性起業家が増加し、産業分野もハイテクや医療のみならず、介護・福祉、健康といったサービス分野での起業、少子高齢化など国内市場の縮小を反映し、海外需要創造型起業・創業も増加しており、IMに対する社会のニーズも高度かつ多様化しています。

そのような中、JBIAではあらゆる分野、フェーズで活躍するIMの育成や会員相互の情報交換、地域活動の支援、情報発信を通じ皆様のノウハウの習得、スキルの向上のお役に立ちたいと思います。

特に、今年度は「福島原発被災地復興応援（仮）」事業と前年度に立ち上げました「女性IMネットワーク形成」事業の常軌化に向けた取り組みを推進していきます。

また、管理運営面では事務局移転の経過措置の中で、現在、無償で間借りしている事務局オフィスにつきましては、現在のオフィスが手狭になったことに加え、情報管理面での強化を図る必要からも当施設内別室に移転することとなりました。事務業務効率化の面では会員の増加に伴い、会員データの自主入力化と諸書式出力の自動化等に取り組んでまいります。

2. 2014年度事業計画

1) 人材育成、育成協力

(1) 人材育成事業

地域リーダーIM育成事業「日新館リーダー塾」（仮称）

他の団体がコーディネーター、マネージャー等の名称で中間人材育成を計画していますがJBIAは数多くの認定IM輩出実績を基に選択的に真の地域リーダー育成を目指します。

2泊3日（合宿形式） 10名程度を予定

収入@3万円×10人=30万円 JBIA補助額:30万円-80万円=50万円

（初年はJBIAノウハウ蓄積を兼ねて低価格な受講料とする）

(2) 育成事業協力

①一般財団法人日本立地センター主催IM養成研修及びBI研修

②各地域主催IM養成研修サポート 北海道（新）、福島県

(3) IM・BI認定（IM認定、BI認定）

①IM養成研修並びに地域独自IM養成研修の修了生の80%をIM認定申請

②シニアIM認定

予算 審査委員 6名×1万円 6万円

(4) 各地域シンポジウム（共催）

予算 40万円（開催地4×10万円）

北海道、東北、中部に加え、今年度は九州地区のシンポジウム開催を見込む。

(5) 地域活動協力

「福島原発被災地復興応援（仮）」事業（新）他

予算 25万円

・旅費交通費 20万円

・オープン花束他 4万円

(6) 女性IMネットワーク支援

女性IMフォーラム開催（共催）（新）

予算 25万円

会場費、資料代、広報費、事務局旅費

(7) 情報・広報活動

2) 国際交流

予算

① AABI 加盟費

② AABI アワード審査

③ AABI 論文審査

3) 業務効率化

①事務局業務委託（新）

予算： 40万円（リファインアカデミー）

② 会員データ自主入力システム開発（新）

会員データの自主入力化と諸書式出力の自動化システム開発

予算： 25万円

③ ホームページリニューアル

予算： 10万円

4) 独立事務所借用（新）

事務局移転の経過措置の中で、昨年度末まで無償で間借りしていたNAXIA事務局オフィスが手狭になったことと、NAXIA内に小区画の部屋が空いたので、情報管理を強化する等の必要性から当該小部屋を賃借し移転する。

予算： 200,000円（11,880円×13か月分+電気代25,000円他）